

(平成29年秋掲載) 平成28年度の学校経営計画及び学校評価 (高校部)

1. 目指す学校像

建学の精神である校訓三綱領の『一、履正不畏(りせいふい)：自ら正しいと信ずることを、何ものにも畏れず勇気と責任を持って実践する。二、勤労愛好(きんろうあいこう)：勉学に全力をつくし、人類の文化を継承発展させ、国家社会に貢献する。三、報本反始(ほうほんはんし)：初心にかえり、自分の今日あるのは縁ある人々(ご両親や恩師)のお陰であり、常に感謝と報恩の念を持ち、行動の指針とする。』の訓えをもとに、知性と豊かな人間性を有し、次世代を担える生徒の育成。

2. 中期的(平成28年度)教育指導 重点目標

(1) 知育尊重と人間教育

1. 進学指導の充実と進学実績の向上
2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導
3. 文武両道の推進・強化クラブの戦績向上

(2) 創立100周年に向け、優れた進学校私学履正社として更なる飛躍を目指すため、ニーズに応える信頼づくり

1. 生徒・保護者・中学校からの信頼づくり
2. 地域に信頼される学校づくり

(3) 環境・システムの醸成

1. 心豊かで潤いのある学校生活

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[平成28年度末実施]	【学校運営協議会 構成メンバー】 学校長・副校長・教務部長・生徒指導部長・進路指導部長・保護者会会長 学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活は楽しい (H.28年度：66.0% H.27年度：63.7%) ・授業に先生方の熱意が感じられる。 (H.28年度：76.4% H.27年度：75.9%) <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者としてこの学校に子供を通わせて満足している。 (H.28年度：79.9% H.27年度：80.6%) ・授業に先生方の熱意が感じられる。 (H.28年度：79.2% H.27年度：78.9%) <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は授業に対する十分な教材研究・事前学習に努めている。 (H.28年度：85.1% H.27年度：87.2%) ・生徒はしっかりと集中して授業を受ける態勢が出来ている。 (H.28年度：74.4% H.27年度：80.9%) <p>【学校運営全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者の全体質問(生徒：40問、保護者：38問)に対する肯定回答比率(四捨五入で7割を肯定目途とする)は、生徒で前年比+7.5%の55.0%、保護者が+13.2%の89.5%となる。 	<p>第1回(H.28年5月20日 11:00～約1時間) *本年度の中期的重点目標内容を保護者会会長に説明、賛同を得る。</p> <p>第2回(H.28年10月22日 13:15～約1時間) *新校舎建築工事中を踏まえ、新年度4月からの使用に対し、工事の進捗状況の説明をする(遅れなく順調に進行)。また、体育等のグラウンド使用となる学校生活は、豊中市より借用する運動施設で生徒に補填している事も説明する。説明内容には一定の理解を得られる。保護者会の要望として今後も引き続き、“生徒に対して安全第一”を最優先に、また生徒に不利益が生じないよう最大限取り組むことを確認。</p> <p>第3回(H.29年3月23日 13:00～約2時間) *平成28年度教職員による自己評価、及び生徒・保護者による関係者評価に基づき、昨年度(内容によっては一昨年度)と対比しながら総括する。</p> <p>① 何とか大過なく新年度・新学期に間に合い新校舎が完成したことは学校として安堵している。保護者会としても大変おめでたいことで、在校生はもとより、新入生も大きな希望を持って入学されることを願っている。これからあと新年度の1学期間をかけてグラウンド整備が残っている。今まで以上に“生徒に対して安全第一”を最優先に、また生徒に不利益が生じないよう最大限取り組むことを確認。</p> <p>② 保護者会としては実質4年連続の平均値で、約8割の保護者が“我が子を通わせて良かった”との認識に至っているため、この点は評価している。先生方の日々の熱い指導が通じているのだと考えます。子供達にもこの点は通じており及第点ですが、長年に亘る課題(勉強中心の学校生活にも何か子供達が“楽しさ・憩・潤い”が感じられる工夫のお願い)であり、中期的教育指導重点目標でもある(3)の“心豊かで潤いのある学校生活”の正に核心的内容となる点に関し、次年度に向け何か学校側で妙案は考えて頂けたか?生徒の学校生活への楽しさを感じるポイントは昨年よりやや上がってはいますが、親としては楽しさ・憩・潤いが増した分、成績が伸びない・下がってくるでも困ります。二律背反的な要望とはよく理解しております。→ご要望を受け長らくお待ち致しましたが、画期的なシステムを新年度入学生より取り入れます。本校はもう何十年も現在の教育方針(何としても目標難関大学現役合格を掲げ、放課後も100分の進学講座を必修で展開)でやってきましたが、曜日限定で“選べる課外活動”と称して、クラブ活動を導入します。勿論、現在の進学指導体制を希望して入学してくる生徒も多数おりますので、その路線は従来通り堅持致します。また、帰宅してマイペースで勉強に勤しむことも含めての選択制を採用し、学校生活の活性化を図ってまいります。保護者会としてもそれは楽しみです。保護者会(学校関係者)の願い・要望に対し熟考の末に策が講じられ、生徒にそれが反映されてゆくことは理想的です。大いに期待します。次年度以降の要望として、“大学入試改革”が迫っています。この点も含め、ご指導を宜しくお願い致します。→ご安心下さい。既にアクションは起こしております。来年度以降、中・高全職員規模での定期研修も既に予定しております。</p> <p>③ この一年、保護者として先生方には大いに感謝致します。先生方の自己評価も踏まえた上で、学校経営計画は大過なく順調であったと一定の評価は出来ます。今後も子供達の小さなサインを見逃すことなく、更なる家庭との連携を密にされる事を要望致します。</p>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指数	自己評価
(1) 知育尊重と人間教育	<p>1. 進学指導の充実と進学実績の向上</p> <p>あ) 3 い) 38 う) 39 え) 40 お) 41 か) 42</p> <p>2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導</p> <p>あ) 21 い) 25</p> <p>3. 文武両道の推進・強化クラブの戦績向上</p> <p>あ) 3 い) 25・26</p>	<p>1. あ) 教員間の相互理解・信頼関係に基づき教育活動を実践する。 い) 教科会議で授業内容について意見交換し、授業見学を行う機会を設ける。 う) 初任者など、経験の少ない教職員をサポートする体制を整える。 え) 校外の研修に教員が参加できる体制を整える。 お) 研修・研究に参加した教員が、その成果を他の教員と共有できる体制を整える。 か) 教職員は、常に資質向上の意欲を持ち、効果的な教員研修を受ける。</p> <p>2. あ) 学習内容は生徒の学力・能力に応じて進める。 い) 学習指導において生徒の実態に即した指導に努める。</p> <p>3. あ) 教員間の相互理解・信頼関係に基づき教育活動を実践する。 い) 個々の生徒について状況などを把握する体制を整える。</p>	<p>1. あ) 70%以上 い)～か)の平均指数70%以上</p> <p>2. あ)～い)の平均指数80%以上</p> <p>3. あ) 70%以上 い)の平均指数80%以上</p>	<p>1. あ) H.26年度の自己評価では70.5%と突出する結果となるが、それ以外はH.25年度～H.28年度自己評価(×57.5%)まで、平均58%前後を推移している。進路指導部からの学年別教科担当への情報分析会や学年会等、定期開催で情報交換の場は設けるが、なかなか一体感が自覚できる指導域に到達してこない。H.29年度より当面、“大学入試改革対応研修会”を中高全職員対象で学校開催の予定である。この機に乗じて更に相互理解・信頼に基づく一体感の持てる教育を追求して行きたい。H.28年度のい～かの平均指数は昨年度比+8.6%の45.5%(×)に終わった。昨年に引き続き(1-お)が特に評価指数を大きく下回るが、(1-か)ではおおよそ7割の肯定的回答が得られている。職員の意見・情報交換の場がなかなか取れない分、先生方の前向きな自己啓発に救われているのが現状であると言わざるを得ない。大学入試改革を見据えた研修会もただ受講しただけで終わらせず、有効的・合理的な意見交換の場(教科会を含め)を積極的に設けてゆきたい。う)に関して本校のチューター制度は、本年も新任に対してしっかり機能しており、体制として問題ないと考える。</p> <p>2. あ・い)の平均指数は昨年よりやや下回るが84.0%(○)に至り、この4年間は常に8割を上回っている。正に私学ならではの個々に目の行き届いた、手厚い指導の結果と評する。</p> <p>3. 強化クラブ生在籍コースではあ・い)の観点で検証するが、あ)に関しては、コメント1-あ)に同様である(×)。い) H.28年度は前年比-8.3%の74.2%となるも評価指数をクリアし、一定の評価(○)と言える。現状、強化クラブ生へも個々の生徒に応じた指導を徹底するため、習熟度別クラス編成を実施して4年目となるが、その初年度学年の進学実績には確実に結果が表れており、システムが効果的に機能している事が裏付けされていると判断する。</p>
(2) 更なる飛躍を目指すため、創立100周年に向け、優れた進学校私学履正社として	<p>1. 生徒・保護者・中学校からの信頼づくり</p> <p>あ) 23・26・27・28・29・31 い) 24・30・32 う) 33・34</p> <p>2. 地域に信頼される学校づくり</p> <p>あ) 11・12</p>	<p>1. 生徒・保護者には次のあ～い)の観点を信頼作りの基盤とする。また、生徒の卒業中学校に対しては、う)の観点を信頼作りの基盤とする。 あ) 生徒の生活指導・進路指導・欠席過多の場合、組織的に対応する体制を整える。 い) 上記あ)に対する指導は、常に保護者と連携を取り学校と家庭の両輪で指導を行う。 う) 生徒の転・退学に至るまでの十分な指導と保護者・出身中学校との密な連携を常に心掛ける。</p> <p>2. あ)の観点では、地域住民に対し、施設・設備の貸し出しや、交流を積極的に図る。</p> <p>* 来年度より、“社会性の育成”を掘り下げるため保護者用の学校評価内の20項目を職員の自己評価内でも追加検証する。</p>	<p>1. あ)の平均指数80%以上 い)の平均指数80%以上 う)の平均指数80%以上</p> <p>2. あ)の平均指数70%以上</p>	<p>1. あ)の生徒・保護者に対する平均指数は昨年比+4.6%の76.3%となり、この3年平均は74.8%に至る。H.25年度の60%後半時から確実に成果が出始めていると評するが、目標平均指数を若干下回った(△)。昨年度(あ-28)に対する達成率は60%程度(体制はしっかり機能していた)が、本年は79.3%に至ったことも特筆しておきたい。生徒・家庭から更なる信頼を得るため、体制の機能充実に尽力する。い)では4年連続大きく評価指数を上回ることができ、昨年比+2.3%の88.1%(◎)に至る。ぶれることなく家庭としっかり連携を取り、両輪指導がなされていると評する。う) H.28年度はほぼ前年同様の78.8%となり、ここ3年平均では81.2%となる。結果的に転・退学に至るケースはあるが、昨年同様、担任・学年が家庭・出身中学校との連携に努めた数字であると評価(○)をする。</p> <p>2. あ) 過去2年の平均50.4%を上回りH.28年度は55.8%となるも、実態が職員間に浸透していない(×)。生涯教育では施設貸与の上、指導者も本校職員で貢献しているが、更に積極的な活動と広報を目指して行きたい。H.28年度は新校舎建設で1年お休みをしたが、H.29年度は近隣小学生・住民参加型の年1回の天体観測(中学部主催で新聞に取り上げられる内容)も復活する。職員の意識改革に期待する。</p>
(3) 環境・システムの醸成	<p>心豊かで潤いのある学校生活</p> <p>あ) 6・7・8 い) 9・10 う) 17・18</p>	<p>あ) ホームページ、学校・学年・学級から保護者への情報提供と授業公開を定期的に行い、開かれた学校づくりに努める。 い) 危機管理マニュアルを踏まえ、警察・消防や関係機関との連携に努め、適切な校内訓練のシステムを構築する。 う) 環境教育の一環として、ゴミの分別・日々の清掃指導の徹底を図る。</p>	<p>あ)の平均指数80%以上 い)の平均指数80%以上 う)の平均指数80%以上</p>	<p>あ)の平均指数は、3年連続評価指数超えとなり、H.28年度は僅かではあるが昨年値を上回り80.9%に至る。昨年発足させた中高HP委員会が順調に機能していると評価する。今後も適宜情報提供に努め、保護者に安心して頂く環境づくりを目指す(○)。 い)の平均指数はこの3年平均66.3%となり、H.28年度は昨年比+1.3%の66.7%となる(×)。この1年、新校舎建設中であつたが大過なく完成に至ったことは、実数より職員感覚は高かったと評価したい。未だグラウンド整備が残っており、万に備え職員の危機管理意識を更に高めていきたい。 う) H.28年度はこの3年間の平均値61.5%を下回る57.5%の実績である(×)。校舎建設中なので一層教員付き添いで指導の徹底を図っているが残念な数値である。平素の更なる意識付け(やらされている感から脱却させる)指導が肝要である。</p>